



会 議：国際標準化機構（ISO）船舶及び海洋技術専門委員会（TC 8）

船舶設計分科委員会（SC 8）ロンドン会合

開催場所：英国規格協会（BSI）本部：英国・ロンドン

会議期間：2017年2月20日～22日

参加者：オブザーバーとリエゾンを含む7カ国24名

海技研からの出席者：

太田 進：国際連携センター長

坂本 信晶：流体設計系流体制御研究グループ主任研究員

概要： ISO/TC 8/SC 8 は、WG 12（船体振動）、WG 14（プロペラ）、WG 17（小型 LNG タンク）、WG 18（マンホール）と同時に開催された。

- WG 12 は、日本をプロジェクトリーダーとする船体振動の規格案について審議し、規格案の内容に基本的に合意するとともに、速やかに DIS 投票に入ることに合意した。
- WG 14 は、キャビテーション水槽における騒音計測法及び音源探査法について審議した。騒音計測法については、日本の意見を全て取り入れた規格案が作成され、DIS 投票の準備が整った。音源探査法については、日本の意見が全て取り入れられ、本年7月に上海で開催される予定の次回会合において、規格案についてさらに審議することにした。
- WG 17 は、LNG タンク用高マンガンオーステナイト鋼の規格案について審議し、日本のコメントの大半を取り入れた上で、上述の次回会合においてさらに審議することにした。
- WG 18 は、中国をプロジェクトリーダーとするマンホールの規格案について審議し、日本のコメントの殆どに合意した上で、上述の次回会合において、規格案についてさらに審議することにした。

主な貢献

太田は、主として小規模 LNG タンク（WG 17）に係る規格案の審議を担当した。また、決議起草委員会のメンバーに指名され、決議案の作成に貢献した。

坂本は、主としてプロペラキャビテーション騒音評価試験法（WG 14）に係る規格案の審議を担当した。



ISO/TC 8/SC 8 総会の様子



主な審議結果

当所職員が担当した事項の主な審議結果は以下の通りである。審議結果の詳細については、他機関の報告を参照願いたい。

1 プロペラキャビテーション騒音評価試験法 (WG 14)

WG は、キャビテーション水槽におけるプロペラキャビテーション騒音計測法 (ISO/DIS 20233-1) および音源探査法 (ISO/WD 20233-2) について審議した。ISO/DIS 20233-1 については、日本及びドイツ意見が反映された規格最終案が作成され、DIS 投票の準備が整った。現段階に至るまでに、日本のコメントは全て反映済みであったため、今回の審議における修正は、以下の2点に留まった。

- 水中騒音簡易推定法に関する代表的な文献、の規格案への記載
- ドイツ意見と、それに対する日本・韓国コメントとの折衷

ISO/WD 20233-2 については、一般商船のニーズが非常に少ない分野の規格であるため、日本としては、当初より新規作業計画提案そのものに反対していた。しかし、新規作業計画に対する賛成票が多かったため、審議が開始された。今回の審議では、日本のコメントが全て採用された。主な修正点は以下の通り。

- キャビテーション騒音源の特定は、目視観測 (=キャビテーションそのものの観測) が最も実用的かつ有効である旨を明記。
- キャビテーション水槽における音源探査法は未だ研究段階であり、本規格で紹介する方法は一例に過ぎない旨を明記。
- 目視観測でも音源探査が可能なため、「ハイドロホンアレイが必須」との文言を削除。

WG は、今回の審議結果を取り入れた案を4月中旬までにプロジェクトリーダーがWGメンバーに送付し、本年7月に開催予定の次回WGでさらに審議することに合意した。

2 小規模 LNG タンク用高マンガンオーステナイト鋼 (WG 17)

WG は、小規模 LNG タンク用高マンガンオーステナイト鋼の規格について審議し、40以上に及ぶ日本のコメントの大半を取り入れた案を作成した。主な修正点は以下の通り。

- 高マンガン鋼の利点を強調していた序文を全面的に書き直した。
- 溶接部と熱影響部は含めず、母材 (鋼板) だけの規格にした。

WG は、今回の審議結果を取り入れた案を4月中旬までにプロジェクトリーダーがWGメンバーに送付し、本年7月に開催予定の次回WGでさらに審議することに合意した。

3 今後の予定

次回のSC8は、7月10日の週に上海で、WG14、WG17、WG18とともに開催される予定。次回WG12の会合は、本年秋に単独で開催される予定。